

オリーブの会通信

2012年10月5日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0078 高松市今里町一丁目 499-2
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877 (川井)
<http://khj-olive.com/>



第124回月例会ご案内

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 2012年10月21日(日) 13:30~16:30 (受付:13:00~) |
| 場 所 | 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334 |
| 内 容 | 13:30~13:40 連絡・報告他 (川井) 13:40~15:00 ・京都大会の報告他 ・各講演会、勉強会の参加者による報告 15:00~15:15 休憩 15:15~16:30 学習会 テーマ「社会保障を活用する知恵」 なかまの里 管理者 泉 善 法 氏 ※質問ご希望の方は、事前に質問事項を FAX 頂きますようお願いいたします。 (FAX 087-843-9877 川井) |
| 参 加 費 | ・会員 1家族 1,000円 ・非会員 1家族 1,500円 |

去る9月8日（土）～9日（日）全代研・全国引きこもり家族会・支援者代表交流研修会第7回京都大会が開催されました。今までの大会と大きく違っていたことは、元気になった多くの若者との出会い、また資料作成、受付、会場での対応、お弁当の販売、パックの回収、交流会の進行、手づくりケーキの販売等々を、若者が殆ど責任を持ってやっていたことでした。

また、講演等の内容については10月例会において、一部ご紹介できればと思っています。

参議院議員 山本博司氏 9/8日の支部長会議での挨拶の中で

H25年度の概算要求として、ひきこもり支援に7億円計上される予定となっており、これは家族から要望のあった、家族や当事者への支援（ひきこもりサポーター派遣事業）で、継続的な相談支援、早期把握のためのひきこもりサポーターを養成していくというものです。家族会の方々が研修を受けてコーディネーターのような形でも広がるのではないかと。NPO法人、地元で取り組んでいる方にも国がお金を半分、地方自治体が半分負担するというもの。みなさんの活動がこのような形になっています。この取組は超党派で対応が必要と考えており、県の問題とかあれば直接言っていたきたい。

理事長 池田佳世氏 9/8日の支部長会議での挨拶の中で

奥山代表の遺言で次のリーダーになりましたが、自分には強いリーダーシップはないので、みんなで盛り上げていきたい。京都大会を開催できたのは、本当にありがたいと思っています。本日は60名参加いただいております、この会がさらに発展することが、ひきこもりの当事者に朗報となることを願っています。

副理事長 中垣内正和氏 提案より

3議案について提案があった。議案1「ひきこもり対策基本法」（仮称）の制定を求める。議案2 大阪地裁の「30年ひきこもり発達障害男性に対する判決」に抗議し、最高裁に裁判官への人権、精神疾患、ひきこもり問題の教育の実施を要望する。議案3 ひきこもりの再定義を求めるもの。それは不景気故か40歳代、50歳代のひきこもり初発というものも出てきた為。また、池田理事長から2議案の提案があり、活動報告と方針提案、理事長任期制の提案があり、2議案とも了承された。

参議院議員 山本博司氏 9/9日の挨拶の中で

広島大会から参加しています。ひきこもりの方にあつたのは、2007年議員になる前、重度の知的障害の娘がいますが、今日で25歳の誕生日を迎えます。何もできない重度の娘ですが、当たり前前が幸せを感じるなど様々なことを娘を通じて実感しています。そのような思いをもって香川の川井理事長、愛媛こまどりの会の理事長などと会って、娘とは違った大変な闇の世界というのか、その思いをすごく感じました。議員になれた暁には、この分野に取り組んでいこうと思いました。

まだ予算はついていませんが居場所づくり、また就労支援と貧困でも予算をつけないといけないと感じています。その点でも政治、行政と支援者がネットワークを組んで対応することを決意し、お祝いの言葉に替えさせていただきます。

厚労省 社会・援護局総務課課長補佐 鶴見隆彦氏の挨拶の中で

先ほど山本議員からお話がありましたが、国の取り組みを紹介したい。H21年度からひき

こもり地域支援センターの設置に取り組んでいます。ひきこもり地域センターができる意味合いとは、ひきこもりに特化した施策がその地域に必要なということ自治体が認めるということです。ひきこもりに特化したセンターができることが大事なのです。

今年度の概算要求では、ひきこもりサポーターを養成した上で市町村は派遣してくれるよう派遣事業を7億円として、自治体の3分の1が手を挙げてくれる目論見としている。県レベルも必要ですが、小さな市町村単位で草の根的なアウトリーチのような形で、最もいいのは家族会の方がピアサポーターとして支援すること。これは要求であり、これから決まるかどうかはわかりませんが、ひきこもりに特化した施策が通ることを祈ります。

もう一点、ひきこもりに特化したものではないが、生活困窮（貧困）の国のモデル事業を55億円用意しています。これは来年度の通常国会で新法を準備しています。これも県レベルではなく、市レベル。京都では府レベルとなります。

生活保護になる前に該当の若者にワンストップで対応すべく総合相談センターを作る。該当者のアセスメントをしたうえで支援計画を策定し、付添型支援を行う。これは就労前の生活訓練レベルから計画し実行する。それから就労につなげる。社会保障審議会で9月から後半のラウンドが始まるが、このセンターにひきこもり当事者も相談に来るとのイメージを持っている。その点では、ひきこもりに特化ではないが、新たなサービスとなる。サービスに多様性があるのは重要。ひきこもり地域支援センターとの連携や、ひきこもりサポーターとの連携も考えられる。大きな広がりをもって就労支援につながればよい。

少しずつですが、ひきこもりに特化した居場所作りなどにもつながればよい。今も池田代表にはご協力いただいている。自分が現場にいた時に隣がひきこもり担当であった。長く対応し疲れているのも知っている。支援者が疲れるのは、逆に当事者が元気になっていると思っ

以上

◆里 稔 副理事長 逝去のご報告

去る9月21日 自損事故により逝去されました。9月22日通夜、23日告別式はベルモニー会館 勅使において執り行われました。ご親族、関係者、オリーブの会会員の方々も多数参列されました。遅ればせながらこのたびの通信にて、謹んでご報告申し上げます。設立当初より親の会の副会長として、ひきこもり支援と会運営に取り組んでこられました。

衷心よりご冥福をお祈りいたします

【10月居場所活動予定】

| 内 容 | 日 | 曜日 | 時 間 | 担 当 |
|-----------------|----|----|--------|-----|
| 第6回運営委員会 | 7 | 日 | 13:30～ | 川井 |
| 個人カウンセリング（松田先生） | 13 | 土 | 9:00～ | 加藤 |
| ポパイの会 パソコンの組み立て | 14 | 日 | 13:30～ | 森下 |

【11月居場所活動予定】

| 内 容 | 日 | 曜日 | 時 間 | 担 当 |
|------------------|----|----|--------|-----|
| 第7回運営委員会 | 4 | 日 | 13:30～ | 川井 |
| 個人カウンセリング（松田先生） | 10 | 土 | 9:00～ | 川井 |
| ポパイの会 パソコン教室（予定） | 11 | 日 | 13:30～ | 森下 |

次回【125回 月例会予定】

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 2012年11月25日（日）13:00～受付 13:30～16:30 |
| 場 所 | 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室 |
| 内 容 | 学習会 「抑うつ、強迫神経症の苦しさ」 講師：メディカル カウンセリング ルーム たなかクリニック院長 精神科医 田中 和孝 氏 |

【講演等のお知らせ】

| | |
|---------------|---|
| 基調講演 フォーラム | 「テレワークは、人を育て、地域を育て、未来を創る」 株式会社インフォ・クリエイツ社長 加藤 均 氏 平成24年度徳島県新しい公共の場づくりのためのモデル事業 JCI在宅就業支援センターをICT基盤としたテレワークによる地域雇用の創出 |
| 日 時 | 2012年10月14日（日） 10:00～16:00 |
| 場 所 | 徳島県教育会館 5階（徳島市北田宮1丁目8番68号） |
| 研修講座 | 青少年育成支援ネットワーク研修講座 「ひきこもり、ニートの現状と対策のいま」 —とり残される若者たち— |
| 講 師 等 | ひきこもり親の会、若者サポートステーションほか |
| 日 時 | 2012年11月2日（金）・11月17日（土）のうち1日 10:00～14:30 |
| 場 所 | サンメッセ香川 中会議室 |
| 主 催 | 香川県 |
| 講 演 | 「多様なひきこもりを支援する」 —「居場所」と「出番」づくりに寄り添う— |
| 講 師 | よこはま若者サポートステーション施設長、NPO法人ユースポート横浜理事 臨床心理士 鈴木 晶子 氏 |
| 日 時 | 2012年11月29日（木） 13:30～15:45 |
| 場 所 | 香川県立ミュージアム 講堂 （高松市玉藻町5-5） |
| 主 催 | 香川県精神保健福祉センター |